

日本にあるその「家」

国際関係学院学生代表

見学日時：2019年6月3日（月）14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

見学概要

2019年6月3日、中国日本友好協会の朱丹副秘書長を団長とする第24回「走近日企・感受日本」中国大学生代表団は中華人民共和国駐日本国大使館を訪れた。そして、大使館を代表して張参事官から私たち代表団の訪問への歓迎をいただいた。

その後、6大学の代表者が日本滞在期間中の感想についてそれぞれ発言した。清華大学の葛さんは、「大学で日本人の大学生と交流した後、日本と中国の文化の違いを実感した。そしてホームステイの際、日本人のご家族と一緒に和やかに過ごした」という感想を述べた。中国人民大学の陳さんは、週末に横浜美術館に行った際に日本と中国の美術館を比較し、中国にある美術館は展示テーマや展示品についてより深く考えるべきであり、また政府も美術館の建設をサポートすることが必要だと感じたとの感想を述べた。對外經濟貿易大学の鄒さんは、「一言で感想を述べるとすれば『心が奮い立った旅』」とまとめた。鄒さん、そして同じグループの王さんは京都大学を訪れた後、京都大学への留学という思いが芽生えた。そしてホストファミリーと一緒に経文を書き、書道を体験したことを通じてやっと日本での生活を実感できたとの感想を述べた。そして最後に今回の活動について総括する形で「素晴らしさを見つける目を持ってこそ、他者の長所に学ぶことができる」という意見を述べた。北京第二外國語學院の邵さんは、積水ハウス訪問の後、日本の建築の細部へのこだわりを感じ、また茶道や座禅を体験してからは、中国も自国の文化の継承を重視すべきとの認識を持った。そしてさらにこの数日間の日本訪問を通じて、一中国人として社会的責任感と環境保護の意識を持つ必要があると感じたと述べた。北京建築大学の鄒さんは、日本独特の栽培方式を体現する積水ハウスのナチュラルキッチンを入ったとの感想を述べた。その他、鄒さんはまた地震や海洋環境に応じた設計と特殊な人々のための設計が非常に大切であり、中国が日本に学ぶべき点であると感じたと述べた。そして最後に国際関係学院の孫さんは、「日本の建物は単に美しさのためではなく、少子高齢化や地球温暖化そして省エネ排出削減の問題を解決するために設計されている」との感想を述べた。



6大学の代表者による発言終了後、日本の地理や経済、そして資源や社会問題などを含めた日中関係の現状について張亜強参事官から紹介をいただいた。その中で張亜強参事官は「中国と日本は海を隔てて向き合っていることから、多く

の中国人は日本を旅行先にしている。日本は経済と科学技術が発達していて中国と緊密な連携を保っている。したがって、中国と日本の経済貿易協力をさらに推し進め、友好と相互の信頼を促進することが大切である」との見解を示された。

そして最後に、代表団全員が大使館前で記念写真を撮影した。



なぜですか？

中国と日本は一衣帯水の隣国であり、グローバル化の波の中で、協力して経済発展を図ることを必要としている。みずほ銀行や積水ハウスなどの企業はいずれも中国に支社を開設している。例えば、みずほ銀行の場合は中国での事業規模が最も大きいとのことである。また日本企業には多くの中国人が在籍している。日本と中国の経済協力には発展のチャンスが多く、大きな将来性を有している。つまり日中両国は世界経済の成長を推進する上でより大きな役割を發揮することができる。

感想

張参事官の「大使館に来ることは自分の家に帰ることと同じ」という一言が最も印象的だった。大使館は海外にいる中国人の強い後ろ盾であり、国のこうした保護に応えるために、私たちは日中友好に向けて何らかの貢献をするべきだと感じた。

「他者の美を美とし、自他の美を共に美とすること」を継続するとの観点は非常に重要である。今回、企業や大学への訪問そしてホームステイを通して多くを学びそして胸に刻んだ。そして、それらを自分の日常生活において実践したいと思っている。例えば、ごみの分別がそうである。また日本語を専攻する学生であっても、日本企業についての認識にはズレがあるかもしれない。そのため今後の学習においては、言葉の勉強だけでなくさらに多方面に学ぶ必要がある。青少年は両国の未来を担う存在である。これから先、青少年交流を通して時代の流れに合った新たな日中関係が構築されることを願っている。